

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	県立倉敷琴浦高等支援学校	実践者名	若狭 昌平
実践場面 (教科)	3年 情報		
単元・題材名	データの活用		
学習目標・ねらい	ビッグデータを利用し、必要な情報を手に入れよう ・ビッグデータから必要な情報を検索し、手に入れることができる(知識・技能) ・情報技術を適切に活用し、正しい情報を取捨選択する態度を養う(主体的に学習に取り組む態度)		
対象の児童生徒の実態	素直で真面目な面がある一方で、自分で判断し活動しようとするのは苦手で、指示を待つ傾向がみられる。		

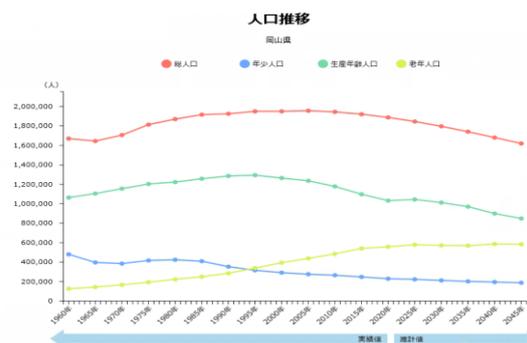
活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する

- ・地域経済分析システム(RESAS:リーサス)は、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステムである。
- ・RESASを使うことで各都道府県の現状を正しく理解することができるだけでなく、推定値も表示される。このことから、人口増減の理由や産業構造の推移の理由などを予想し、考えることができる授業が展開できる。
- ・情報を正しく収集し、主体的に判断・表現・処理・創造できる力を身につけることができる。

授業展開

◎岡山県の人口推移を調べて、その増減の理由を考えてみよう。

1. 調べ方を知る
2. 岡山県の人口推移の情報を収集する
3. 増減について気づいたことや考えたことを表現し共有する
4. 今後の課題を挙げ、改善するためにはどのような施策が必要か調べたり、考えたりする



活用のポイント・改善策等

【ポイント】

- ・岡山県の特徴を調べる(交通の要衝である・温暖な季候・自然災害に対して安全…)
- ・年齢構成を調べる
- ・住みやすさを調べる(自然環境・公共サービス・生活利便性(スーパー、学校、病院など)・犯罪率など…)
- ・他の都道府県と比較してみる
- ・どうすれば岡山県の人口が増えるのか(子育てに適した環境・地域振興・公共サービスの充実など…)

【改善策】

- ・時間がかかるので連続性をもって、計画的に授業を行うことが大切である。